

授業科目	成人看護実習 2	3 学年・後期・3 単位 (135 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	城丸瑞恵 (保健医療学研究棟 E209 号) e-mail : shiro.m@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	澄川真珠子、小木曾寛樹、他		
概要	<p>既習の知識・技術を応用し、健康課題をもつ成人と家族への具体的な看護実践を通して、慢性病とともに生活する人への看護を学習する。病状・治療と生活との相互性、現在に影響を及ぼす過去の病い体験の意味を考察し、多角的理解を看護に反映させる実践を学ぶ。</p> <p>この実習は、入院中の慢性病患者とその家族が、症状コントロールや社会復帰に向けてセルフケア能力を発揮し、全人的健康を回復できるよう、必要な看護を実践する基礎的能力を養うことを目的としている。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入院中の慢性病患者の健康課題を把握し、個別性のある看護計画を立て実践を評価することができる。 2. 患者の安全を守り、患者の状態に適した安全・自立・自律を考慮して援助することができる。 3. 実践における人間関係の重要性を認識し、患者とその家族の心理状態に応じた関わりがもてる。 4. 病気とともに生活する患者とその家族に対し、セルフケアに必要な教育を含む支援活動ができる。 5. 社会復帰あるいは病状に適応した生活に向けて、包括的医療により支援の幅を広げられるよう、医療・福祉サービスの活用や関連領域との連携の必要性を学ぶことができる。 6. 看護学生として責任をもち、倫理的側面を考慮した行動をとることができる。 		
評価	<p>実習状況(95%)、レポート(5%)により評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習状況については、実習記録、実習態度、実践内容を総合し、評価表に基づき評価する(評価表は開講時に提示する)。 ・レポートについては、提出状況及び記述内容により評価する。 		
履修上の留意点	成人看護方法 3、成人看護方法 4 の単位を取得していること。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1名を受け持ち、看護過程に沿って看護を実践する。ただし、患者の状況により受け持ち患者が途中で変更する場合がある。 2. 3~4名のグループで、内科系病棟で3週間の実習をする。 3. 学内カンファレンスは毎日1時間、病棟カンファレンスは2週目と3週目に各1回1時間行う。 4. 実習記録は所定の用紙に記載する。 5. 実習最終日にレポート・看護過程の記録・実習中の記録を提出する。
実習期間	10月から翌年1月下旬の間の3週間
実習場所	札幌医科大学附属病院
実習時間	9時から17時までとする。

実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者及びその家族と目標を共有し、個別性のある看護計画を立案し実践する。 <ul style="list-style-type: none"> ・それまでの病いの経過と今後への思い・希望を意識した患者理解、今後の見通しを予測したアセスメントを行い、患者と目標を共有した看護計画を立案する。 ・立案した看護計画を患者の安全・安楽、自立・自律に配慮し、方法を吟味しながら実践する。 ・実践した看護の評価および計画の修正を行い、個別性のある看護を目指す。 2. 実践における人間関係の重要性を認識し、患者と家族の心理状態に応じた関わりをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・病いの経過の文脈から現在の患者及び家族の心理状態を予想し、対象者を尊重した態度で関わる。 ・患者・家族と自己の関わりを振り返り、援助的関係性の構築について吟味する。 3. 病気とともに生活する患者とその家族に対し、個別性に注目しながら、セルフケアに必要な教育を含む支援活動を行う。 4. 社会復帰に向けて必要な医療・福祉サービスにネットワークできるように、関係領域との連携を検討する。 5. 看護学生としての責任を理解し、患者と家族および医療の現場における倫理性を意識して行動する。 6. 患者ケア、カンファレンスへの参加を通して、自己の考えを他者と共有し考察を深める。
------	--